

地域のなかで育む

21世紀を担う子どもたち。可能性を伸ばし、個性豊かに育てるため、いま教育には地域のみなさんの力が大きな役割を果たしています。



「いらっしゃい！」地域のお店で商業体験

教育には、みんなの力がが必要です。

「地域社会が持つ「教育力」の活用

社会環境の変化にとまどない、いじめや不登校など心の問題が全国的にクローズアップされています。その背景には、人との関わり方への不安や地域のつながりがうすれたことなどが考えられます。

市の小・中学校ではそのような問題に対処するため、他人を思いやり、正義感を養うなど「心の教育」の充実に努めています。また、基本的な生活習慣や人間関係のありかたなどを教え育てるうえで、地域社会や家庭が持つ教育力も重要になってきます。

変わる教育、だからこそ連携

平成十四年度からは完全学

校週五日制と、授業時間を減らし、ゆとりの中で特色ある教育を行う新学習指導要領が実施されます。このように、学校教育が変わる節目のいま、さらに学校と地域の連携を強めた教育が求められています。

その取り組みとして、小・中学校では、地域のかたを講師として招いたり、他校の友だちと一緒に体験活動をしたりする「はばたけ秋田っ子」の学習を取り入れています。

また中学校では、ふるさと教育の一環として「環境・福祉・地域との関わり」「未来の国際都市へ」といったテーマをもとに、秋田市の将来を考え、郷土をつくる意欲を育てる「ゆめ秋田21中学生会議」などを行っています。

子どもたちが社会生活のルールを身につけるには、地域との関わりの中で学び、行動することが必要です。